

青空の下で収穫祭&バーベキュー



▲入居者、職員、ボランティア、みんな集まって年に一度の収穫祭&バーベキュー

震災復興を願い気仙沼から牛肉を

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員

洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

今年もふくろう畑でたまねぎが豊作でした。地域交流会の井関様が収穫までの消毒、肥料、草とりをこまめに行ない、見守ってください、多くの大きなたまねぎを収穫する事ができました。入居者のみなさんには収穫されたたまねぎの根をさみや鎌で土にまみれながらも丁寧に切りとっていただきました。収穫当日お手伝いくださった皆様、お世話してくださった井関様ありがとうございました。

恒例の収穫祭&バーベキュー大会が行われました。はじまりは収穫した野菜が入った神輿をかついで、職員と入居者さんと一緒に各ユニットを周りまわりました。そして、バーベキューでは、今年3月に東日本大震災があり、震災復興を応援したいと考え、宮城県気仙沼市(けせんぬま)にある亀山精肉店様より牛肉・ホルモン・宮城県の名物の牛タンも取り寄せました。「遠い淡路島から震災復興を考えて下さってありがとうございます。私たちも負けないで頑張りましょう」とお礼の言葉と、2kgものウインナーをいただき、逆にこちらが励まされました。

参加者の方々が美味しく食べている様子が見られ、入所者さんからは『おいしかったよ!』『ビールうまい!』など、いろんな声がありました。

柳高校や関西看護大学の方のボランティアの協力をいただき、天気が良く、暑さとドラムの熱で大変でしたが、参加してくれた方々も入居者さんとの交流が深めることができました。本当に参加して頂いてありがとうございます。(生活援助員:野地)

初めての炊き出し訓練

7月2日防災委員会で、「淡路島に大型台風が上陸、停電、断水で、ガスの供給もストップし、隣の道路も崖崩れで通行

不能になった」との想定で、炊き出し訓練を施設内の庭で行いました。水は地下の貯水槽からポリタンクに直接汲んで運び、50人分のご飯と100人分のカレーを薪で炊きました。

大鍋を使って、大量の調理を薪の火にするのは、初めての職員ばかりでしたが、水加減や火加減も奇跡的にうまくでき、焦げや芯のないご飯とカレーもおいしく炊き上がり、夕方からのバーベキュー大会参加者に振る舞いました。火吹き竹を見るのも使うのも初めての若い職員が、経験のあるベテラン職員に教わりながら上手に火をおこし、文明に頼らない先人の知恵から防災の備えを学べた訓練となりました。(事務長:八木)



入居者さんと力を合わせて(志田さん)

畠さんふるさとへ帰る



▲約40年ぶりにふるさと梁瀬駅の前で感慨深げな畠さん

畠ゆり子さんの念願であった故郷の朝来市に、当時一緒に働いていた谷妙子さんと行ってきました。

駅から畠さんの生家の前を通り、一緒に通われていた通勤路を歩きながら、昔話を聞かせて下さいました。家族との思い出、仕事の内容や他の同僚のこと、家の近くにあったお店など、初めて聞く話ばかりが飛び出し驚きましたがお二人のお

話をする何とも言えない穏やかな表情を見て、人生を振り返って語る機会を作ることの大切さを実感させられました。

畠さんは92歳、身体の不調を乗り越えて帰郷を果たしましたが、帰られてからは「今度は家族に会いたい！」と新しい目標に向けてますます輝いておられます。

(生活援助：小林)



▲帰ってから畠さんが書いた高架橋の絵



▲思い出深い実家近くの高架橋



▲谷さんと一緒に思い出探し

東日本大震災被災者受入パンフレット作成決定

2011年度全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会総会

平成23年6月15日～17日にかけて、京都いこいの村において施設長・相談員会議が行われました。

初日の総会では、平成22年度の事業報告があり、その後施設長会議と相談員会議に分かれ、それぞれ

の施設の施設の情報交換や意見交換が行われました。

施設長会議の中では、東日本大震災で被災された。

た高齢聴覚障害者の各施設での受け入れを予定しており、そのPRの為のパンフレット作りが行われることが決まりました。

困っておられる高齢聴覚障害者の情報は、まだまだ少ないですが、少しでも多くの高齢聴覚障害者の方々に支援ができるよう努力しなければならぬと感じました。

(相談員：竹原)

京都聴言障害者の暮らしを考える集会

6月25・26日の2日間京都で行われた「第12回京都市聴覚言語障害者の暮らしを考える集会」に大矢施設長の講演に4名の入居者様に参加されました。

参加された入居者様は帰ってきた翌日の朝の会で集会の内容や、ふくろうの郷で収穫された、たまねぎや記念誌を55冊買っていたいただいたことを報告されていました。

(生活援助：神代)



自分の人生を語る土居さん

6月ユニットレクリエーション

《Eユニット》

6月7日(火)淡路夢舞台「奇跡の星の植物館」に行きました。

梅雨の中休みで天気にも恵まれ、1年ぶりの外出に行くことができました。

たくさんの花を観て「きれいなあ」「すごいなあ」と感動されていました。

ちよつと遠くて疲れた様子の方もいましたが、皆さん、とても喜ばれていました。

(生活援助員:新井)



緑につつまれてみんなで一緒に



▲触手話と風で観潮を楽しむ藤本さん

《花木ユニット》

当日(6月28日)はすごく暑かったですが、うずしおクルーズの船に乗れて気持ちよかったです。

昼食は皆さん好きなものをレストランで注文して、みなさんおいしそうに食べられていました。

夏の暑い日のさわやかな時間を過ごせてよかったです。

(生活援助員:角村)



《月三ユニット》

6月28日、月川ユニットで巻き寿司レクリエーションを行いました。

今回はリビングで食べるのではなく、ユニットを飛び出して外で食べようと企画したものの、夏の暑さが厳しく、館内で食べることになつてしまいました。

しかし、巻き寿司作り用に炊いた一升の米はあつという間になくなり、追加で米を炊くことに。

自分で作って食べる喜びと、楽しんで食べることを提供できたと思います。

(生活援助員:神代)



▲料理レクで盛り上がる入居者のみなさん

5周年記念誌「ふくろうの郷物語」を読んで

先日、淡路ふくろうの郷を訪問した時の事を思い返しながらかこの本を読んだ。入居者の笑顔、職員の方々と熱意、入居者の心に寄り添う姿勢、いつでも温かい笑顔で迎えてくれる、そんな場所だった。だが、あの入居者の笑顔の裏側には壮絶な人生があった。差別を受けた日々、人権を無視された生活……。この本は様々な事を私たちに訴えかけている。

大矢さんの言葉に「辛い経験を共有する。ろう運動の原点とは、差別を許せない、もう繰り返してはいけない、新しい時代を作らなければいけない」という強い気持ちです」とある。高齢ろう者の「怒り」を受け継ぎ、語り続けていく。

この本はまさしく本当のろう者問題をとり上げた本だと思ふ。是非、たくさんの人に読んでほしい。そして、地域での取り組みに生かしてほしい。

愛知県 服部芳明様より (一部抜粋)

人の生き方は、人の力で変えられるものと実感しました。兵庫の力は(震災がきっかけではありませんが)人の生きようとする力そのものだったのではないのでしょうか。サークルの関わり方を考えますと、学ぶところの大きさに愕然とさせられました。

いずれ老いていく私たちがですが、人を思いやりながら優しい最後に出会いたいと思いました。読みながら辛くなるときもありましたが、ありがとうが沢山あつて、それがあの笑顔に繋がっていると感じました。

私にできることが、もう少しあるような気持ちになりました。

(一部抜粋) 福山手話サークル芦の会 濱本計子様より



頒価 2,000円(税込)

地域を語る

第31回 淡路の玉葱栽培について

戦後、冬作の麦栽培の効率が悪くなってきたことから、その替りの作物として玉葱栽培を奨励することになった。

戦前から玉葱種子の栽培地として和歌山県那賀郡長田村依託採種田を依頼していた。

その後、県に要望して美方郡香住町で母球を送って採種していたが、反収(10アール当たり)が少なく不成功に終わった。

このような経過のなかで、農業技術者として福良に永住した西川真二技師が斉藤幸市氏と系統選抜によって斉藤系品種の中から兵庫一号・二号と品種の確立となった。

その後、採種技術の中で、西川・岩田技師らの「雄性不稔の交配原理」がきっかけとなった。その頃、たまたま広島からの帰途淡路へ立ち寄った香川県三豊郡豊中の岩田次夫氏が、淡

路玉葱の採種にひらめきを感じ、斉藤系(淡路種)から「もみじ」種が誕生し品種が固定化した。

そして岩田氏が経営する七宝(しつぼう)採種組合と連携し淡路玉葱として食味と品位の確立となり、現在に至り平成10年(1998)10月20日「淡路七宝45年の集い」を開催した。

※45年前は昭和29年(1953)前川敬一著・歴史を学び太陽と土と水の記述より



収穫して小屋吊りしている玉葱

ゆーゆーファイブ温泉ツアー



これから地域皆様のお力になります

3月にふくろうで開かれた独居老人食事会の際、「市から入浴券を配布されているけど交通手段がないから行かれへんわ」との声が。それならば!というところで地域ふれあいセンターお試し事業の一つとして民生児童委員さん協力の下、7月6日に「ゆーゆーファイブ温泉ツアー」を企画しました。

参加された方は3名。入浴を含めて1時間ほど滞在したのちふくろうに帰ってきてお茶をしながら話を伺いました。「去年1年間は1枚も(入浴券を)使わなかったから(行けて)

よかったわ」「夕食もつけてくれたらありがたいな」「大勢で入れることが嬉しい」など色々なことを話してくれました。

今回は主に「交通手段の困りごと」解消へ向けての取り組みでしたが、行ってみて「困りごと」を解消・軽減できる場の必要性を改めて感じました。これからも本格的なスタートに向け、ふれあいセンターとしていろいろな企画をしていきたいと思っておりますので、皆様方のご意見お待ちしております。

(室長・濱田)

恒例の梅干し作り



できあがりを楽しみだね

今年も地元中川の平野さんの指導で梅干し・梅酒を作りました。皆さん経験を重ねてきたこともあり、あつというまに終わりました。

秋ごろにできあがる梅干を楽しみにしています。

平野さん、お手伝いに来ていただいたボランティアのみなさんありがとうございます。

ふくろう喫茶とカクテルバーのお知らせ

◆日頃の忙しさを忘れて、ふくろうバーで一緒にカクテルを堪能しませんか。

開催日時: 8月11日(木)
13:30~16:30

カクテル各種 1杯 ¥300

◆ふくろう喫茶でふくろうの郷の入所者さんと、楽しい時間を過ごしませんか。

開催日時: 8月21日(日)
13:30~15:00

コーヒー・紅茶・ココア・カルピスなど 1杯 ¥200より

